

広域避難者支援ミーティング in 四国

～ 近畿ろうきん「NPOパートナーシップ制度」
を通した避難者支援の取り組み ～

近畿ろうきん 地域共生推進部
次 長 中 須 雅 治

日 時:2012年10月24日(水)

会 場:ひめぎんホール(松山市)

全国のろうきんプロフィール

(2012年3月末)

ろうきんの全国ネットワーク、北海道から沖縄まで13の労働金庫が展開。

■店舗数 642店舗

■常勤役職員数 11,786人

■預金残高 17兆 4,379億円

■融資残高 11兆 5,706億円 (住宅ローン証券化分を除く)

北海道・東北・中央・新潟県・長野県・静岡県・
北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄県

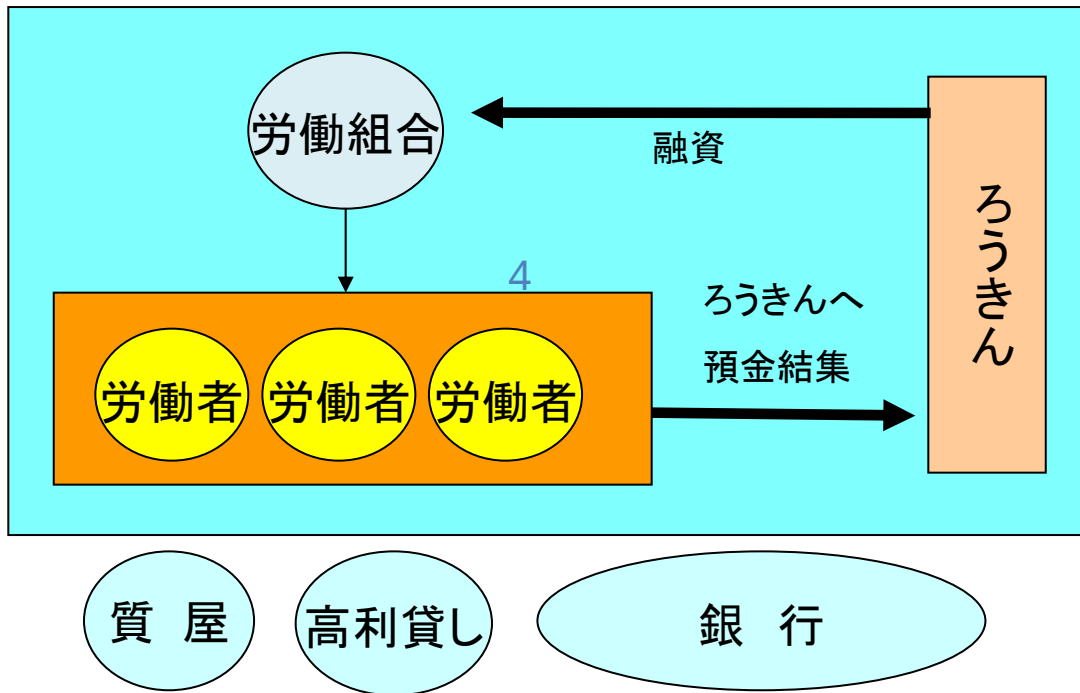
近畿ろうきんプロフィール

(2012年3月末)

- ・ 名 称 近畿労働金庫 (略称は、近畿ろうきん)
- ・ 所在地 大阪市西区江戸堀 1-12-1
- ・ 設 立 1998年10月1日 (近畿7ろうきんの統合により設立)
- ・ 店舗数 65 店舗
- ・ 事業内容 労働金庫法に基づく、金融業務(預金・融資・為替等)全般
- ・ 預金残高 2兆 294億円
- ・ 融資残高 1兆2,474億円
- ・ 自己資本比率 12.13%

ろうきん そもそもの出発

敗戦後、労働組合・ろうきんが、労働者の生活を守り、
社会的な役割を果たした時代
暮らしを支えあうためのファンドがろうきんであった



■社会環境

- 戦後間もなく物質的に貧しい時代
- 経済・産業の復興が国家的課題

■労働者の環境変化

- 労働者は銀行から融資を受けられない = 質屋・高利貸しの猛威
- 労働者による自主福祉の協同組合 = 政府に頼らず、市民(労働者)が自分たちで創った金融センター
- 労働者自主福祉運動の発展 = ろうきん・労済・消費生協の創設

○ 社会の課題や矛盾の解決のための「社会的な資源」が労働運動であった時代 = **労働運動の活発化**

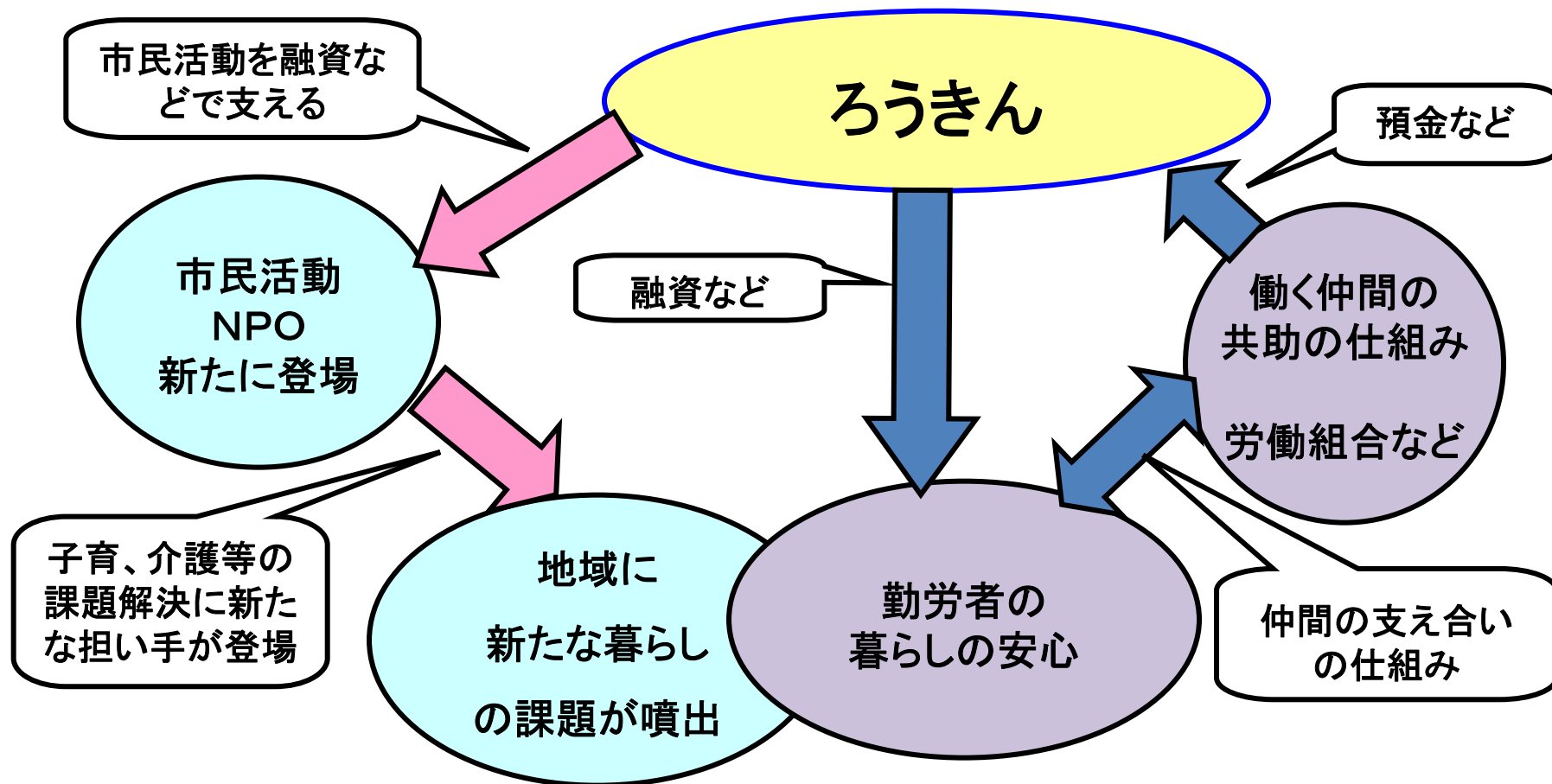
○ 社会的信用に乏しい労働者に対する金融信用事業 = **ろうきんが労働者の金融機関として役割を発揮**

暮らしを支えあい、働く者の生活を守る社会づくりへの壮大な社会実験として、ろうきんは出発した！

ろうきんの新しいアプローチ「共生事業」

「公益」 ← 共生事業で新たにコミット

「共益」 ← 基本的なろうきん活動でコミット



世界の新たな潮流「社会的金融」と連携をめざす
ろうきんの基本的な立ち位置＝日本の非営利・協同セクターの一員

非営利・協同セクターとしての視点

1. ろうきんの基本的な立ち位置 = 日本の非営利・協同セクターの一員

2. 協同セクター金融としての役割

1995年ICA声明「コミュニティへの関与」「協同組合間協同」を受けて

⇒ 仲間内の支え合いを超え、ソーシャルセクターをつなぐ「社会的金融」の実践

協同組合は、市場原理経済による社会矛盾を乗り越え、多様なメンバーシップで支え合う世界的な仕組み。暴風雨から仲間を守るために生み出された“社会の智慧”として、ヨーロッパを中心に大きく広がる。95年ICA(国際協同組合同盟)声明:第7原則において“コミュニティへの関与”が謳われたように、“共益”を旨としながらもよりパブリックに社会の課題にウイングを広げることが協同組合の世界標準となっている。

行き過ぎた市場万能主義が世界を席卷する時代。社会を崩壊させず、
支える仕組みとして、協同組合の価値に改めて世界が注目している。

※2012年は、国際協同組合年

3. 協同組合とCSR

協同組合はそのことにおいて、そもそも社会的意義を有する存在とも言える。しかし、CSRの視点を組み込むことで、自らの事業価値をより社会化し、または、補完すべき課題を掴む契機となる。したがって、協同組合セクターはより積極的にCSR視点を取り込み、価値創造に活かすことが重要となっている。

「社会貢献プロジェクト・すまいる」の展開

「社会貢献預金・すまいる」の預金結集を柱としながら、従来から取り組んできた以下の《共生促進事業》を「社会貢献プロジェクト・すまいる」として総合的に展開します。これらの個々のプロジェクトをはじめ、セミナーや学習会、見学・体験ツアー等の参加企画の提供を通して、労働組合の社会貢献活動やろうきん利用者の社会運動への参画促進に寄与します。

【2012国際協同組合年全国実行委員会・認定事業】



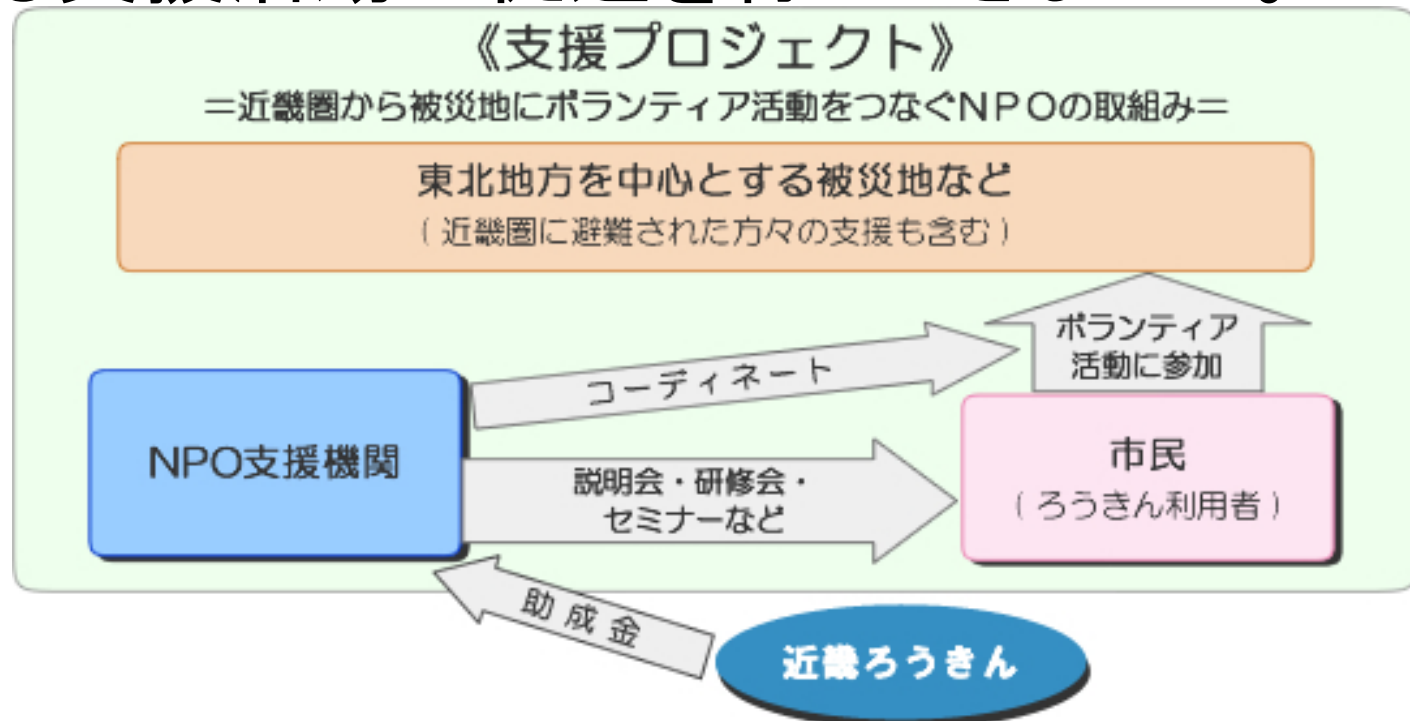
近畿ろうきん NPOパートナーシップ制度 2011～2012年度 活動報告



「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」とは

○近畿圏のNPO支援機関が取り組む活動を、近畿ろうきんが応援する仕組みです。

●2011年度・2022年度は、東日本大震災・被災地支援の取り組みに特化し、活動資金の助成による支援活動の促進を行ってきました。



■ 共通企画

○ 被災地支援フォーラム
(2011年7月5日、94名参加)

○ ボランティアバス【気仙沼】
(7月9日～11日、24名参加)

《以下、避難者支援企画》

○ 「ひらかたパーク」招待企画
(11月19日、84名参加)

○ 「東映太秦映画村」招待企画
(2012年2月19日、250名参加)

○ 「USJ」招待企画
(9月9日、150名参加)

※3企画とも、避難者同士による交流会を
実施。法律相談・就労相談ブース設置。



【滋賀】しがNPOセンターの取り組み

1. 現地報告・災害ボランティア説明会(4月)
2. 先遣隊3名派遣(6月)【岩手】
3. カムバックサーモンプロジェクト
(8月～12月)・・・6回のボラバスを派遣
(2012年1月24日)・・・報告会
4. いわてGINGAネット応援バス(8月)【岩手】
5. 菜の花プロジェクト(10月)【福島】
6. 冒険遊び場(2012年2月)【岩手】
7. 県内避難者交流会(12月、2月)
8. 福島の子ども保養プロジェクトinかんさい(8月)
9. Weフォーラム2012in福島(8月)



【奈良】奈良NPOセンターの取り組み

1. 東日本・奈良災害支援
チャリティー屋台(11月3日)
2. 奈良災害支援ネット報告会(同上)
3. 南相馬市訪問・現地交流会
(12月12日～15日)
4. 東日本・奈良県南災害支援
合同報告会(12月18日)
5. ボラバス・陸前高田(2012年4月)
6. 避難者宅訪問・ネットワークづくり
(4月～12月)
7. 避難者交流バス遠足・奈良名所巡り
(9月～10月)



【和歌山】 わかやまNPOセンターの取り組み

民間による、支える人を支えるネットワークを結成、事務局を担当。

1. 毎週の定例会、毎月11日のボランティア活動報告会「Remember 11」での情報共有
2. 「支える基金」として、和歌山から震災被災地へ向かうNPOへ、被災地から和歌山へ避難している方を支援するNPOへの募金・助成を実施
募金総額・約360万円、助成総額約220万円。
3. チャリティTシャツ、手ぬぐいなどの商品開発を実施 → 紀伊半島大水害時の各種支援へ
4. 避難者支援としての相談会・交流会の実施。
5. 県総合防災課に県内避難者への周知実施。



【京都】きょうとNP0センターの取り組み

1. 「つなぶろ」への職員派遣(職員3名)【仙台市】
2. 支援者支援セミナー【仙台市】
3. 企業による被災地支援コーディネート【宮城県】
4. 東日本・家族応援プロジェクトin きょうと2012
漫画のパネル展示、ワークショップやセミナー
5. サマースクールの開催(2012年8月)
避難している子供たち対象。大学生をボランティアに交流体験イベント。
6. 京フィル&夏川りみ「特別公演」(2012年9月17日)
被災地の中学生(オーケストラ部)、避難者も参加の市民合唱団と共演



【大阪】大阪ボランティア協会の取り組み

1. 先遣隊派遣(職員2名)【東北】
2. 災害ボランティア説明会(3月～7月、全12回、参加者167名):心構えなど
3. 大阪から元気を届けよう! チャリティバザール(9月23日):東北物産品の販売
4. 東北⇄関西ポジティブ生活文化交流祭(11月23日):炊き出し応援など
5. 震災復興イベント「3.11 from kansai」
(2012年3月10～11日) ※避難者交流会実施
6. 「おもてなし・カタログ」(春休み・夏休み)
文楽、コンサート鑑賞や野球観戦など、
大阪・関西らしいプログラムをカタログにして提供!
「USJ企画」もこのカタログにて募集



【阪神】阪神NPO連絡協議会の取り組み

1. 何かできる、何かしたい人のための現地支援報告会
& 災害ボランティア研修会(2011年7月.12月.2012年6月)
・・・災害ボランティアの心構え、現地物産販売会など
2. みんなで歌おうチャリティコンサート(9月20日)
・・・歌声で募金と共感を！
3. 阪神から東北、そして日本を考える市民フォーラム
～冬が来る前に我々ができること(11月13日)
・・・各団体の被災地活動報告、今後への提言
4. 内部被爆を生き抜く『映画会・お医者さんを囲む
お話会』(2012年7月28日)
5. 吹夢(スィム)キャンプ(8月10～15日):吹田
6. みんなでそろって歌おう会 & 交流会(10月6日)



【兵庫】 NPO法人シンフォニーの取り組み

1.被災者支援関係者会議の開催(8回)

継続的支援の呼びかけ・情報共有など

2011年:4回、2012年:4回

2.「東北-関西」架け橋プロジェクト

～ひと・もの・情報の交流～

・ボラバス(2011年2回、2012年4回)

・帰省バス(2011年1回、2012年4回)

3.みんなでバスを走らせよう！チャリティ

コンサート『この道を信じて』の開催(2011年)

4. 就労支援相談窓口(2012年9回)

「3.11 from kansai」「USJ企画」などにて実施



復興支援プラットフォーム(2012年度)

第1回(5月30日)

避難者支援を主テーマに、幅広く防災や地域づくりまでを射程において、施策検討など総合的な復興支援のための調査研究を行い、さまざまな復興施策への反映をめざす。

第2回(8月30日)

- ①「奈良県被災者の会」からの報告
- ②「社会学広域避難研究会」報告(関西大学社会安全学部)

第3回(10月31日)

- ①避難者グループ(団体)からの報告・交流
- ②「避難者支援法」の学習(大阪弁護士会)、意見交換

第4回(12月上旬)

- ①「ゆめ風基金」からの報告(障がい者等、社会的弱者の対応)
- ②関西連携等、防災研究の報告(大阪ボランティア協会等)

《 ろうきんの理念 》

- ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。
- ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的としています。
- ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。
- 会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。
- ろうきんは、誠実・構成および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

1997年5月 全国労働金庫協会 第12回理事会決定